

マザアスニュース 第18号

ひだまり

2000年10月1日(年4回発行)

発行/社会福祉法人マザアス

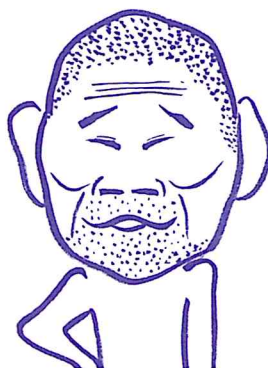
〒203-0004 東久留米市氷川台2-5-7

Tel 0424-77-7261

Fax 0424-77-7500

発行責任者/高原 敏夫

編集責任者/萱野 彰一郎



『入居者の皆さんの似顔絵』敬老の日のお祝いに職員が描きました。誰だかわかるかな???

お年寄りの気持ちを大切に

看護課長 森田 雅子

80人の入居者はそれぞれに病気も障害も違いますが、皆マザアスに来て元気に穏やかに生活されています。人生に満足された方、また反対に苦労ばかりでやっとここで幸せにめぐり合えたとおっしゃる方、と様々です。

スタートから5年が過ぎ、看護課は特養ホームマザアス東久留米、在宅サービスセンターマザアス氷川台、在宅サービスセンターマザアス大門、訪問看護ステーションマザアス氷川台がチームを組んでいます。地域の方や利用者に信頼されるよう、何よりも健康になっていただけるように生活環境を整えてきました。寝たきりにしない、床ずれをつくらない、排泄の障害に気をつけながら、精神的に安心できるようご本人やご家族にもいろいろお話をうかがいながら、仕事を進めています。

高齢かつ病気の進行に加え入居者の平均年齢が84歳となり、生活も全面介助の方が多く

なりました。同時に看とりを希望される方も増えています。もちろん、治療して治るものは入院したりホームでの処置もします。しかし、これ以上検査や治療で苦しめたくないと思うご家族、慣れ親しんだスタッフのお世話でおばあちゃんは幸せでしたと死を受け止めてくださるご家族など、出会いと別れ、ホームでは毎日いろいろなことがあります。

症状や苦痛を伝えられない人も多くいます。悔いを残さないようにするためご家族の思いを伝えていただくこと、疑問があったら早めに尋ねていただくことをお願いしたいと思います。その人のためと思って一生懸命したとしても、一方的では何にもなりません。

この仕事をして喜ばれ感謝されて幸せを毎日いただいています。これからも一生懸命仕事をしていきたいと思っています。

声の欄

ヘルパーステーション
マザアス氷川台の巻

叔父の死を機に

叔父が亡くなった事を聞いたのは、残暑の厳しい夏の夕暮れの事でした。

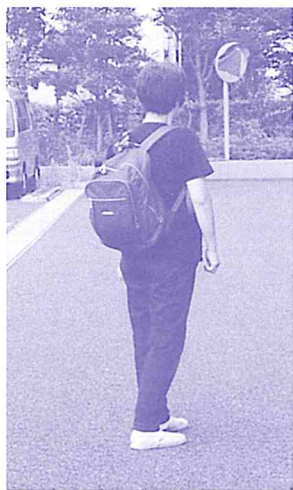
目の不自由な妻と二人、酪農で生計を立て、助け合いながら生きていた彼らの生活にも老いが見られるようになり、

「ジーとバー二人、これからはのんびりするよ」と言って、ニコニコ笑っていたのは、5年程前のことでした。

年々老いていく彼は、体の不調を感じていましたが、自分より不自由な妻には悩みを打ちあける事ができなかったのでしょうか。いつしか閉じこもりがちになった彼が選んだのは死だったのです。彼もこの高齢社会に不安を持つ一人だったのでしょう。

老夫婦二人だけの生活や、独居老人が多い今、老いた事への不安や悲しみをかかえ生活している人が数多くいる事でしょう。そんな人たちに今私に何ができるのか、叔父の死を機に、もう一度考えてみようと思います。

野呂 洋子



七つ道具を背負って、いざ出発。

私のヘルパー3年6ヶ月

今年4月から介護保険制度がスタートしました。私も、利用される方も少なからず不安やとまどいがあったのではないかと思います。マザアス氷川台のホームヘルパーとしてお世話になって3年6ヶ月、あっという間に過ぎてしまいました。

この間つくづく思いますのは、利用される方の自立へのお手伝いや、介護のお世話をさせていただき適切な対応をしているか、本当に満足されているのか、気になる毎日の連続でした。

でも、利用される方々からの感謝や励ましの言葉をかけられる時、今まで以上に仕事への意欲、責任を強く感じます。

また、利用される方々やご家族のご理解、ご協力をいただく事も必要です。

これから高齢化社会に向かうなかで、私自身のため貴重な経験、体験をさせていただき、これからは勉強しながら精一杯頑張っていきたいと思っています。

貫井 久子



“ヘルパー室のお昼休み” 突撃カメラにハイポーズ。

大切にしたい事

「こんにちはマザアスです」と玄関を開ける。そこは利用者の方の城、長い間ご自分なりに過ごし易くなっている空間でもある。その空間を大切にしながら今必要な事、今後のために必要な事を考えてケアを進めたいと思うのです。いつも笑顔に会えるとは限りません。拒否にあうこともあります。しかし拒否もひとつの意志伝達方法であると思っています。せっかく伝えてくださった気持ちを表面の拒否だけを見るのではなく「どうして?」「どうやったら?」につなげたいのです。こんな時もチームケアの大切さを感じます。多面の方々との情報交換により、利用者さんへの理解を深め、より適切なケアにつなげていく事が大切だと思うのです。

「お邪魔しました。また来ますね」と玄関を出るとふっと緊張が解かれる思いがします。

三富 夫美子

母の背中

ヘルパーとして働き始めて早5ヶ月が過ぎました。縁あって、15年前に住んでいたこの地で働ける事をとてもうれしく思っています。私も利用者の方々と少しづつコミュニケーションがとれる様になり冗談の一つも話せる程になりました。今ではこんな私でも待っていて下さる方がいるのだと思いつつ、急な坂道、ペダルを踏んでいる毎日です。又、利用者さんの年老いた背中を見るたびに、田舎にいる母の事を思い出し、母にしてあげられない分、皆さんをやさしく見守ってあげようと心に誓っています。

介護の仕事とは自立援助が基本です。何から何まで私達からするのではなく、利用者さんの自立心を導き出すことが大切です。この事を頭に入れて、これからは困った時は悩まず先輩の皆さんから適切なアドバイスを頂き、いつも晴れればとした気分で利用者さんに接していきたいと思っています。

中島 八千子

はじめまして! 訪問看護ステーションです

今年の4月からオープンした訪問看護ステーション。私たちスタッフは、皆様に満足していただけるケアを提供するために綿密な討議と、パワフルな活動を続けています。それもこれも利用者の皆様に励まされる体験あればこそ!今日はそんな私たちの思いをご紹介します。

管理者 村田 典子

〜〜〜 極限の中の感動 〜〜〜

看護婦 近藤 邦

「患者中心の看護」を実現できるのは在宅ではないかとの思いを持って、この仕事を始めました。

在宅看護は、患者さんも家族の方も極限との戦いです。その中で人としての弱さを曝け出し、ぶつかり合いながら極限を乗り越えていきます。全力を尽くすと、結果はたとえ死別であっても「良かったね」といえる充実した最期。そんなところに感動を覚えながら、私たちは日々、自転車を走らせています。

〜〜〜 訪問の喜び 〜〜〜

看護婦 軍司 恵美子

念願の訪問看護に携わらせていただき、とてもうれしく、毎日が充実しています。50代で倒れ、全身麻痺と言語障害が強く残ったTさん。ご主人の献身的な介護と、最近のマンパワーの増員で刺激も多くなったある日、「あなた」とご主人に語りかけられ、不意のことに目を潤ませながら笑っていらした無口なご主人。言葉には言い表せないほどの感動が喜びとなって伝わってきます。

病気を抱えながらもその方やご家族がその人らしく過ごされますよう、ささやかなお手伝いができますなら…。全力を尽くしていきたいと思います。



〜〜〜 看護婦だからできること 〜〜〜

看護婦 北尾 裕美子

訪問看護婦になって3年目。患者さんの笑顔や家族の思い出に触れると、いつもほんわりとした気持ちになって、それが私のパワーの源になっています。

病気をもちながらも一番自然に、自分らしく過ごせるのは在宅だという私の信念。これは今後も変わらないと思います。その在宅療養に看護婦だからこそできることを、患者さんや家族と一緒に考えていけたらいいなあと思います。

そして毎日が感動の中で働くことができ、今の自分が関われることのできる仕事をたくさん見つけていこうと思っています。

〜〜〜 人生の「達人」たちと出会って 〜〜〜

看護婦 内桶 桂子

病気で利き手の手・足の自由を奪われたIさん。そんな不自由さを全く感じさせないほど、着替えも上手にこなしてしまう。ここに至るまでのあなたの頑張りや想いを寄せるだけで胸が熱くなります。看護の仕事の魅力のひとつはこんな「達人」たちとの出会いが多いことでしょうか。「老いる」ことや「障害を負う」とはどんなことか身をもって語りかけてくれます。

あなたがあなたらしく生きていけるように…お手伝いさせて頂いたつもりが、人生の「達人」たちに育てられていたのは自分だった。そんな気がする毎日です。

〜〜〜 新しい仲間と 〜〜〜

作業療法士 畠山 泰子

私と理学療法士の柏さんは、マザアスの開設からデイサービス・機能訓練事業・訪問指導に携わって参りました。

在宅高齢者のリハビリは生活という視点が求められますが、実は医療とのバランスが大変重要でむずかしい分野と感じています。今回そんなむずかしい分野を担ってくれる経験豊富で心温かい看護スタッフと出会えたことは、何よりもうれしいことです。

私は、作業療法士として、障害があってもちょっとした工夫で出来る事がたくさんあることを伝えていきたいと思っています。

〜〜〜 訪問リハビリってこんな感じです 〜〜〜

理学療法士 柏 利子

私は訪問リハビリを担当している理学療法士です。訪問リハビリでは、手足を動かす練習や歩く練習をしています。でもそれだけでなく、外出訓練として外に出かけたり、お風呂の入りを練習したり、風船で遊んだりもします。生活の中でしていきたいと思うことを具体的に、自分で出来ることは、できるだけ自分でできるように、一緒に考えたりしています。



座談会

マザアスの5年間を ふりかえる

去る8月11日に入居者、職員数名ずつに集まっていたき、この5月で開設5周年を迎えたマザアスの思い出を語っていただきました。さてさて、その会話の行方は……？

出席者

江崎 ミキさん(入居者)	井上 道明(総務課)	森田 雅子(看護課)
志賀 妙子さん(入居者)	斉藤 良子(在宅サービスセンター)	山崎 吉彦(生活介護課)
関根 紬子さん(入居者)	野村 廣美(栄養課)	萱野 彰一郎(生活介護課)～司会



「けんかもよく やりました」

- 斉藤 「入居者さんも職員もこの5年でほとんどかわってしまいましたね」
- 野村 「やはり“かわった”という印象が強いんです。予想していたことですけど」
- 斉藤 「栄養課も当初のメンバーが3人しか残っていない…」
- 萱野 「僕はマザアスに来て3年ですが、最初にしたのは、初めからいらっしゃる方々(入居者も職員も)の結束が固く、新しい人間が入り込みにくいと感じるほどまとまっていたということでした」
- 野村 「その頃は、今まで一緒に過ごしてきた人達がこれからもずっと一緒に暮らしていく、という雰囲気がありました」
- 斉藤 「それが3年目、4年目あたりから徐々に変わってきた」
- 志賀 「入居者も元気がよかったですよ。けんかもよくやりましたし。今はけんかもしないぐらいおとなしくなっちゃった。初めのころは何につけ威勢がいいというか、よくしゃべったし。みな自己主張が強いから、人の話を聞くというより自分の話をしたいという人が多かった」
- 斉藤 「職員のほうも自分の仕事に精一杯で、利用者さんの立場に立てなかった点を指摘されたこともありました。とても勉強になりました」

「前の夜になって 伝えられ…」

- 野村 「施設の立ち上げでどうしても、仕事に慣れなきゃいけない、こなさなきゃいけない、という気持ちが強くて、利用者さんのほうに目を向けられなかったかもしれない。だから最初のお花見の時も、“やらなきゃ”という思いが強くて、職員は懸命に準備するけれども、利用者さんに対しては何も説明がおこなわれなかったということがあった」
- 志賀 「小金井公園へ行く前の夜になってから『明日行くんだけど』と伝えられ、いろいろ心配だった。職員の方々はちゃんと準備を進めているんだけど、待ってるほうは様子がわからないもんだから…」
- 斉藤 「利用者さんと職員が一緒になって考えて、無理のないスケジュールを立てればよかった。今は改善されているのでしょうか」
- 一ここで江崎さんと関根さんが加わるー
- 萱野 「今、お花見の話をしてたんですが」
- 江崎 「私、お花見に一度行ったことがある。どらやきをいただいたの」(笑)
- 萱野 「『花よりだんご』ですね」
- 江崎 「でも、桜もきれいでしたよ」
- 志賀 「いちばん最初、ものすごく寒かった。4月8日でしたっけ。まだほとんど蕾だったけれど、あれもまたよかった」
- 斉藤 「早すぎたのね、毛布持ってたのよ」
- 志賀 「お弁当がまたよかったでしょう」
- 野村 「お弁当は手作りで持ってたの」
- 斉藤 「きれいだった、すごく」
- 志賀 「大きな幕の中で、職員さん、ボランティアさんの分も。席取りがまたたいへんで、まずは偵察に行っちゃってちゃんと下見をして、ほんとにたいへんですね」
- 山崎 「前もって日程を決めるのも難しいですよ」
- 志賀 「決められないですね。開花の状態や天気がわからないから」

「アルバムを見る 時間もいいですね」

- 志賀 「ハンドベルの演奏とか、いろんなことやりましたね。よくばりで、一年中忙しかったわね。今でも詩吟とか書道とか大勢参加してますよ。俳句や生け花、お茶なんかもけっこういるんじゃない?みんな先生がボランティアの方でね。ちぎり絵も青山さんなんかとてもじょうずだったわね」
- 斉藤 「3 Fのエレベーターのところにずっと飾ってあって、すずめが今にも飛び立ちそうな感じでした」
- 志賀 「はじめは私もやったんですけど、青山さんにはかなわないし…なんて。あと、リーダーターフェルの皆さんも7回ぐらいみえてますよね」
- 森田 「志賀さんとか伊藤さん、島崎さんの詩に曲をつけてくださって」
- 斉藤 「こうやってアルバムを見る時間もいいですね」
- 森田 「関根さんもまだ入所して間もないけど、そのうち懐かしくアルバムを見るようになるんじゃないですか?」
- 志賀 「関根さん、入所してどのくらい経ちましたっけ?」
- 関根 「この6月で1年になりました」
- 森田 「お元気になったような気がします」
- 志賀 「入られたころ、しょんぼりしてたのね」
- 野村 「慣れるまで不安ですものね」
- 関根 「とっても不安でしてね。ずっと一人でおりましたでしょう。そこへ看護婦さんがいらしてくださったのかしら」
- 森田 「集団生活の中へ入ってくるのってたいへんですよ。今はもう大丈夫ですね。すっかり明るくなられて」
- 関根 「はい、おかげさまで」
- 志賀 「私が入居した日にひじょうに強烈な印象を受けたのは、武田さんが玄関ロビーにいてニコニコとしてあいさつしてくれたこと。それから武田さんをすっかりおぼえました。また、その日の午後から消防訓練があったんですよ。まだ入居者の数が半分ぐらいでしたか。Wさんという寮母さんが司会をしてみんなに童謡を歌わせたりして、消防訓練なのに。(笑)それで、『えっ、老人ホームってこういうところなんだ』と思っちゃってね。でもWさん一生懸命ピアノの伴奏をしてくれたの」



「老人ホームの話じゃないみたいだね」

- 野村 「こちら(井上・山崎)、マザアスに入ってから結婚なさったから、2人とも。独身だったんです、5年前は」
- 志賀 「わたし山崎さんは知ってるの。まだタンスに貼ってあるもの、お守りがね。これを寝室に東向きに貼っとくといひことが起こるわよって言ったらね、それから何ヵ月も経たないうちにほんとにいいことが起こったのよ」(笑)
- 山崎 「効き目が早過ぎちゃった。おかげでもう2児のパパです。」
- 志賀 「井上さんは何児のお父さま?」
- 井上 「こないだ生まれたので、今2児ですけど…」(一同驚く)
- 森田 「朝礼がないから、わかんなかったね」
- 志賀 「そしらぬ顔でねー」
- 野村 「みんな何か隠してるんじゃないの?でも5年の間にすごい変化ですよ。独身から2児のパパなんて」
- 井上 「ですから書いといてください。5年間の思い出といえば個人的なことですけど、結婚して子供が2人ということです…」(笑)
- 山崎 「男性は結婚して子供ができて仕事が続けられますけど、女性のとくに介護職の人は結婚してそうなるとほんといへんですよ」
- 志賀 「たいへんだものね、子育てしながらっていうのは」
- 山崎 「少子化とか言われてますけど、そういうことに歯止めをかけるのであれば、労働条件なども考えたほうがいいのではないかと…」
- 志賀 「『生めよ増やせよ』でみんな少子化に歯止めをかけてください、どんどん。(笑)なんだか老人ホームの話じゃないみたいだね」
- 斉藤 「お守りをまた貼っていただいて、そして2、3ヵ月の間におめでたい話がまた出てきたりして」
- 志賀 「じゃ、ばんばん貼りまくって」(笑)



在宅介護の豆知識

年をとると排泄に色々な変化が起きてきます。お年寄りの特徴を良く知り、ひとりひとりの能力を生かしたより良い介護の方法を考えてみましょう。

介護の心構え

- 1 お年寄りの気持ちを思いやり、自尊心を傷つけないようにしましょう。
- 2 排泄の特徴を理解しましょう。
- 3 お年寄りの状況に適した介護の方法を身につけましょう。
- 4 介護負担を軽くする方法を知りましょう。
- 5 介護用品や補助具を上手に使いこなしましょう。



<身体の清潔篇>

<尿の観察と高齢化による変化>

通常は一日1～1.5ℓを5～7回で排尿しますが、高齢化により腎臓の機能が低下し排尿回数が多くなります(特に夜)。色は淡黄色透明で混入物のないのが正常ですが、濃い色の尿や血尿、蛋白尿が出ることもあります。また、排尿を我慢する脳の指令が弱まったり、膀胱の出口の筋肉(括約筋)がゆるむ為尿もれ(尿失禁)をし易くなります。残尿がおこり、排尿しきれない感じになることもあります。

<便の観察と高齢化による変化>

通常1日1～2回、1回に100～250g位排便される(便の量は食事の量や内容により変化がある)が、腸のぜん動運動や筋力の低下により便を出す力が弱まり、運動不足も重なり便秘し易くなります。また、消化吸収力も弱まり下痢も起こし易いです。肛門括約筋の機能も低下したり、排便を支配する神経が障害を受けると回数が多くなり、もらしてしまうこともあります。

《在宅での排泄介護Q&A》

Q1 尿意・便意があってトイレに行くのですが、動作がゆっくりで間に合わないことが多くなりました。

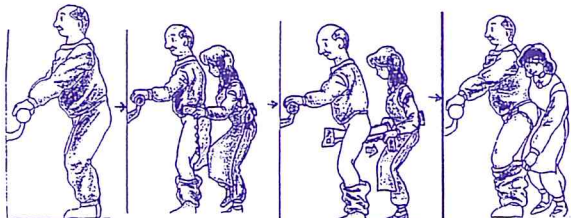
A 部屋をトイレの近くにしてみましょう。夜はポータブルトイレや尿便器を使ってみては。また、衣類は上げ下ろしが楽にできるよう工夫してみてください。

Q2 痴呆が進み、尿意・便意があってもトイレの場所が分からなくなり、結果的にトイレ以外の場所で排泄してしまいます。

A まめに声を掛け、トイレへ行きたいか聞いてみたり、時間を決めてトイレへ誘導してみましょう。

Q3 尿意・便意がなくなり、今はオムツを着けています。痴呆のためじっとしてられず、オムツ交換も大変です。

A 介助を必要とする方の興味がある事柄を優しく話しながら行ってみてはどうでしょうか。気持ちがオムツ交換から離れて、落ち着くかもしれません。立位をとることができる方なら、オムツ交換を立ったまま行なうという方法もあります。



Q4 寝たきりでオムツを着けています。床ずれが心配です。

A オムツ交換は床ずれやかぶれなど、皮膚のトラブルに気が付く良い機会です。尿で湿った皮膚は床ずれになり易いので、オムツ交換時は洗浄して乾いた布で軽く拭き、清潔にしましょう。ひどい時は医師に診てもらい、症状にあった指示をしてもらいましょう。

Q5 便秘になったらどうすれば良いでしょう。

A 腹部を「の」の字を書くようにマッサージしてみましょう。便秘の原因を探り、適切な対応をしても出ない時は医師に相談して下剤や座薬を使ってみましょう。2～3日おきでも、定期的に排便があれば心配ありません。

便秘を防ぐための食品の一部

玄米、麦飯、小麦胚芽、豆類、おから、芋類、ごぼう、はす、こんにゃく、セロリ、海草類、りんご、いちじく、プルーン、牛乳、ヨーグルト、バター、植物油、蜂蜜

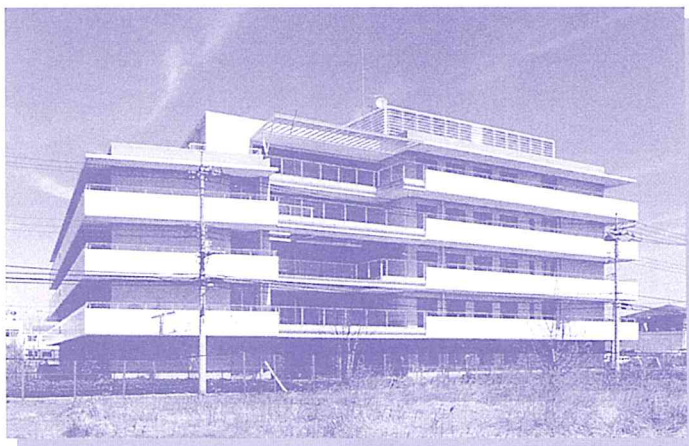
Q6 下痢の時はどうしたら良いでしょう。

A 原因を探り医師に相談しましょう。脱水になり易い為水分補給をしましょう。食事は消化が良く、刺激の少ないものを良く噛んで食べましょう。下痢が続くと肛門周囲がただれ易くなるので洗浄を行いましょう。便は少し軟らかい位なら心配いりません。

姉妹施設・マザアス日野のご紹介

「Mさん、百歳の誕生日」

Mさんは良く通る三河弁で話をされるホームの人気者です。そんなMさんの百歳の誕生祝いを明るい話題として皆が盛りあがってもらえるように準備しました。ご家族に好物を教えて頂き、プレゼントを考えてみました。他の入居者の方々も大いに楽しみにされ、一緒に飾り作りを手伝っていただきました。ところで、誕生日前夜のことですが、同じフロアのHさんがやって



来て、明日はMさんに頭をなでてもらいたいと申し出がありました。聞けば百歳の方に頭をなでてもらうと、長生きできるとのことです。まわりのことには無関心を装うHさんが言ってこられたので少しびっくりしました。さて、当日は散髪と入浴を朝一番で済ませ、おめかしをしたMさんに大きな拍手が集まり、環境の変化に敏感なご本人も戸惑いつつ嬉しそうでした。希望通り頭をなでてもらったHさんをはじめ、多数の人が感動した1日でした。今後も喜びを皆で分け与える環境作りを目指したいと思います。 (祓川竜雄、マザアス日野・介護員)

「日野でのデイサービスの様子を報告します」

デイサービスセンターは5階にあって、富士山が鮮やかに見える環境の中で、利用者と職員が一緒になって楽しい時間を過ごしています。センターでは、利用者の個々の身体状況やニーズに合わせて、二つのグループに分けて活動しています。一方は、籐細工・陶芸・絵画等の主として「利用者の趣味、生きがい活動の充実」を考えた活動をするグループ。他方は「職員と利用者、利用者と利用者の関係作り」又「心身の安定を考えた環境作り」を考慮した、少人数で活動するグループです。センターでは入浴プログラムを積極的に実施し利用者に心身とも気持ちよくすごしていただくことも心掛けています。ところで、8月5日には日野の組織をあげて、納涼祭を催しました。その日のために、デイサービスのプログラムを大幅に組み換えて、ホームの入所者、近隣の方々、ボランティアそして家族の方も共に、楽しい夏の夕べのひとときを皆で過ごすことができました。多くの人達に支えられて、職員一同がんばっています。

(大島秀治、マザアス多摩川苑・介護員)

日野のマザアスは、昨年5月にオープンした、東久留米と同一法人施設です。

- ・ 特別養護老人ホーム マザアス日野：100名の入居者に、20名分のショートステイ。
- ・ 高齢者在宅サービスセンター マザアス多摩川苑：定員45名。(痴呆専用併設型を含む)
- ・ ヘルパーステーション マザアス多摩川苑：この7月に事業開始したばかりです。
- ・ 多摩川苑居宅介護支援事業所：ケアプランを作成しています。
- ・ 在宅介護支援センター 多摩川苑：相談業務や要介護認定調査を行っています。

連絡先／住所：日野市石田403-19 電話：042-582-1661

施設長：今澤隆一郎、センター長：横塚征一郎、事務長：高山利忠



マザアスに住むお年寄りの朝食の準備は、朝6時の調理員の出勤で始まります。まだ真っ暗で寒い冬の日も、施設の近くに来るともう明かりが灯り、すでに起きてお食事を待っていて下さる方が居ると思うと足も早まります。朝食の下膳と同時に昼食の準備です。昼食は、デイケアの方や配食のお弁当、来所給食の方、そして職員の分と合わせて170食にのぼる時もあります。翌日の仕込みも含めて5人体制で、目の回る様な忙しさです。昼休みのほっとする時間も束の間、昼の下膳、おやつの準備、夕食作りと一日があっという間に過ぎていきます。そのような毎日の中で、利用者の方から

の「おいしかった」という言葉が何よりの励みになり、この仕事をしていて良かったと思う瞬間です。何と言ってもおいしく食べて頂ける食事がエネルギーの源なので、から決して安易に考えてはならないと思います。

4月から介護保険制度が始まり、従来の措置制度とは違う保険給付からの財源となり、食費と職員的大幅な削減により、給食の民間業者への委託が取りざたされていますが、マザアス栄養課は自営のメリットを最大限に生かし、お年寄りに喜ばれる食事作りに調理員一同情熱を燃やして取り組んでいます。

調理師 矢口 春江

バザー&フリーマーケット

日時: 10月22日(日)
11時から15時
場所: マザアス敷地内
(雨天の場合は館内)

～品物のご寄付をお願いします～
日用雑貨、贈答品、新品同様の衣類、小型家具等

受付期間: 10月1日～18日
受付場所: マザアス1階事務所
連絡先: ☎77-7261 総務課

お知らせ

東久留米市長の委嘱で東部地区に現在のところ三名の方が相談協力員として配置されました。

菅 原 朝 子氏	上の原在住
筒 井 英 子氏	浅間町在住
長谷川 容 子氏	大門町在住

相談協力員とは、

在宅介護支援センターを含めた公的サービスの紹介や広報、利用の啓発を行うために配置されています。援助が必要な高齢者の生活基盤となる地域から、より身近な立場でニーズを把握し、具体的な援助に結び付けるパイプ役として、在宅介護支援センターと連携をとりながらご活躍していただきます。

第6回 秋 光 祭

入居者、デイサービス利用者の作品展・写真展等を予定しています。



昨年の展示風景

日時:
11月10日(金)
11日(土)
場所:
マザアス館内

編集後記

食欲の秋・読書の秋・スポーツの秋です。今年はオリンピックも開催されました。いつも、「運動をしなければ!」と思っているだけでなく、「何かを始めよう!!」という気になります。そして、やっぱり汗をかいた後は沢山食べなければいけませんね。紅葉を見ながら温泉なんていうのも良いですねえ。やりたい事が沢山で忙しい秋になりそうです。

角谷 麻水

特別養護老人ホーム マザアス東久留米	デイサービスセンター マザアス氷川台	ヘルパーステーション マザアス氷川台	
Tel 77-7261	Tel 77-7263	Tel 77-7260	
Fax 77-7500	Fax 77-7500	Fax 77-7500	
訪問看護ステーション マザアス氷川台	東久留米市東部 在宅介護支援センター	グループホーム たきやま	老人デイサービスセンター マザアス大門
Tel/Fax	Tel/Fax	Tel/Fax	Tel 70-0065
70-1740	73-9996	77-1525	Fax 70-8024